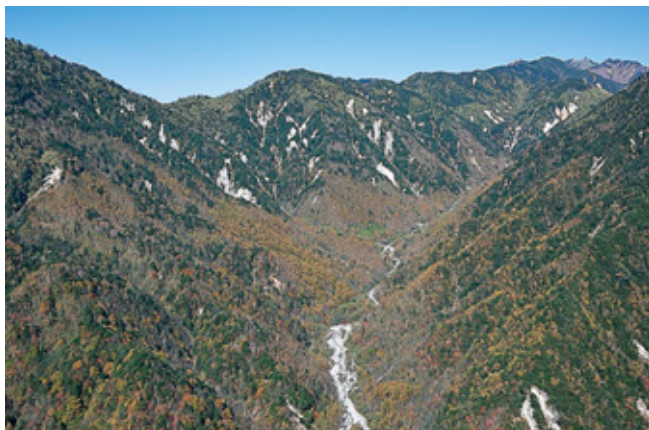




松川入地区 最上流域の荒廃状況

飯田治山事業所は、長野県飯田市内に所在し、木曾山脈に源を発

治山技術官

佐藤 義和

事業所

伊那谷総合治山事業所 飯田治山



国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。そこで各地にある森林事務所や地域の特色、森林官の仕事などを紹介していきます。



県営松川ダム

する天竜川流域松川上流域の約五、三、八、四の民有林を事業区域とする民有林直轄治山事業を実行しています。松川入地区民直事業は飯田市民の上水道水源である県営松川ダムが、上流域の崩壊地からの土砂流入によってダム機能の確保が危機的状況となったことから、地元や長野県の実情により平成五年度から事業着手し、森林の回復を目的とした治山工事を継続的に実施しています。

事業区域の大半は花崗岩深層風化地帯で、マサ化による侵食が著しい土質であるため、表層剥離型の崩壊地が散在し、区域内の荒廃率は四・三％と非常に高く、山腹工を主体とした復旧工事を行っています。マサ化した土壌は、ほとんどが強酸性で貧栄養状態であるため、特に緑化工の工種選択が林地への復旧の善し悪しを左右することから、現地の地質に応じた工種について、施工性や経済性を検討することがポイントとなります。過去の施工実績を参考にしつつ、種子配合や施工時期にも配慮しながら、森林への早期復元を目指す治山事業は、成否の結果が短期間で現れるため、やり甲斐のある業務です。

近年の山地災害の発生状況から、治山事業の重要性や山地災害危険地区の地域住民への周知が重要であることから、現地見学会等のPR活動にも積極的に取り組むとともに、地域の安心・安全を確保するための治山事業を推進したいと考えています。



現地見学会の状況（写真右端が筆者）

■未来の担い手へのメッセージ
 近年は局地的豪雨が多発し、土石流などによる甚大な被害が発生しやすい状況となっています。災害を未然防止するためには、治山事業が不可欠であり、森林の持つ水源かん養や山地災害防止などの機能を高度に発揮するために、誇りを持って治山事業に取り組みたいと思います。

治山事業は短期間で成果を実感出来るので、若い人達にも挑戦してもらいたいと思います。

受注してくださる民間事業体あつての国有林。そこで、国有林の植林や間伐などを行う森林・林業事業体からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。



横山木材有限会社

道善 勝太
（二〇一八年入社）



■事業の概要

請負事業…森林環境保全整備事業（保育間伐活用型）

業（保育間伐活用型）
中信3襟サシ沢

発注者…中信森林管理署

面積五四・三三ヘクタール

搬出予定材積二、五〇〇立方メートル

国有林 六〇%

県有林 一〇%
民有林 三〇%
搬出材積
九、〇〇〇立方メートル（一〇、〇〇〇立方メートル）
現在、女性社員も二名在籍しています。

■現場での役割、魅力

現場では主に集材機、スイングヤーダやウインチ付きグラップルを使った集材作業の荷掛けを行っています。その時の状況によって、どのような仕掛けをすれば効率よく搬出できるのか、試行錯誤を重ねることで知識を深め、次の作業に繋げられるよう心掛けています。



玉切り作業中

林業は危険な仕事ではありませんが、その危険をいかに回避するかを考えつつ作業するのも面白く、緊張感を持った作業ができます。そういった部分も林業の魅力の一つだと私は思っています。また、現場からの景色や空気などに癒されながら仕事をしています。

■森林・林業の世界に

入ったきっかけ

林業を始める前は、専門学校で建築の勉強をしていました。木造建築の勉強をしていく中で柱にはスギやヒノキ、梁にはマツなど樹種の特徴によって用途を変えて建設することで多くの樹種が活用されていることを知り、素材自体の生産方法や加工方法などにも興味を持ち、ただ素材として木を伐採し搬出しているという私の以前持っていた林業へのイメージは無くなりました。そして、生産活動の中で行われる、植栽、保育、間伐、伐採などの施業は、土砂災害防止や地球環境保全など多くの役割を担っている重要な産業であると理解し、林業をやりたいと思う

ようになりこの世界に入りました。



伐倒作業中

■未来の担い手へのメッセージ

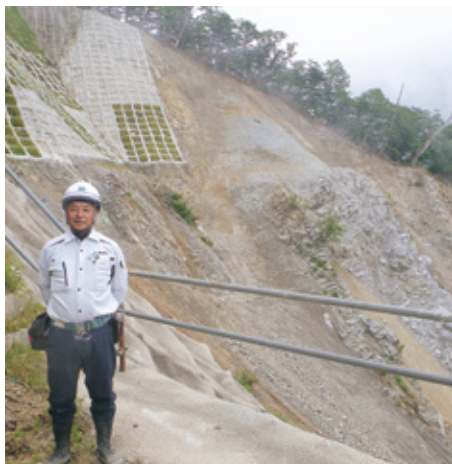
林業の機械化は進んでいます。が、まだ人力での作業が多くあります。自然の中での仕事は大変なこともあります。それ以上にやり甲斐や楽しさを感じることができ

山が好きの方、体を動かすことが好きな方、興味をお持ちでしたら見学会や林業体験会に参加してみてください。

発注者…東濃森林管理署
本工事は、中津川市恵那山北部
の大崩壊地二・五八を簡易法枠

工事

■事業の概要
請負事業…姥ナギ沢^{うば}2復旧治山



株式会社 加藤工務店
おおはし かねゆき
大橋 金幸
(二〇〇二年入社)

シリーズ

「林業土木業界からの便り」



受注してくださる民間事業体あつて
の国有林。そこで、国有林の林道や治
山工事などを行う林業土木事業体から
の投稿をもとに、頑張っている若者や
女性技術者などを紹介していきます。

工等により、山腹の復旧をする工
事です。

■現場での役割、魅力

ここ姥ナギ沢は大崩壊地ではあ
りますが、数十年手を掛けた成果
が現れて来ていて、今後どのよう
に復旧されていくのか見どころで
す。

当初は、特殊モルタル吹付工^{ふきつけこう}、
練積ブロック工^{ねづみ}、丸太筋工等綺麗
な仕上がりで傾注していました。

数十年が過ぎその工事を確認す
ると、手掛けた構造物は、在来樹
木に覆われていて、「これぞ、崩
壊地の復旧」と思い知らされる毎
日です。

それとともに、国有林の崩壊地
を復旧させる仕事は、急峻な山腹
で、安全帯を使いながらの工事
で、作業従事者の大変さを感じま
す。

自然という文字は抽象的ですが、
森林は人が手をかけてこそ維
持されると感じており、自分も少
しでもお役に立てればと思いま
す。

今年度はドローン空撮による、

土量の測量を試みています。標高
一、三三〇mでのドローンによる
空撮は大変困難ですが、新しいこ
とも取り入れながら、建設業に携
わっていきたいと思っています。



ロッククライミングマシンによる掘削の様子

■林業土木の世界に

入ったきっかけ

私が建設業に足を踏み入れたの
は、昭和四十九年四月です。土木
の高校を卒業以来四十五年間、土
木技術者を生業として来ました。
中部圏をはじめ関東圏の官民共の
工事に従事し、平成十四年からは
林野庁、国土交通省等を手掛ける
現在の会社にお世話になっており
ます。



完了全景の様子

■未来の担い手へのメッセージ
今、若い人達には山を護る事、
木材について改めて考えてもらい
たいと思います。日本の国土面積
に占める森林面積は約六六%（約
七割）で、先進国の中では有数の
森林大国と言われています。
森林を護るということは、昨
今、頻繁に起こる豪雨災害を減ら
すことにもつながると思います。
森林を見直す人が多く育ってくれ
ることを願います。